

明日に架ける橋

2025年度 進路だより 第7号
兵庫県立明石高等学校進路指導部
2025年11月28日発行

推薦型選抜入試も山場を過ぎました

前号でお伝えしたように、9月には指定校推薦入試の校内推薦者が決定し、その後国公立大学推薦入試出願希望者が出る度に、会議によって志望者の推薦の可否を決定しています。国公立大学の学校推薦型選抜は出願に際して、調査書の学習成績でかなり高い評定が必要で、学習成績だけでなく高校時代の課外活動状況や、たとえば英検準2級以上など一定の取得資格が求められる大学が増えています。3年生になって、国公立大学に推薦で行きたいとか、指定校推薦で進路先を決めたい、と急に希望しても1・2年生の学習成績・課外活動・取得資格などの状況で出願すらできない場合も多く見られます。何度も言ってきましたが、1・2年生の間から、将来を見据えて、学習・課外活動・資格の3本柱をしっかり頑張りましょう。

国公立大学の多くが学校推薦型選抜に共通テストを課しており、共通テスト・調査書・推薦書・志望理由書・面接・口頭試問や実技、などの総合判定になります。芸術系などを除いては共通テスト重視の大学が多いので、一般選抜と同様の受験勉強をしっかりと継続することが大切です。

私立大学の学校推薦型選抜入試は今月中旬から来月初旬が山場で、第1志望校にチャレンジした3年生もいます。多くの大学が合格倍率3～5倍という高倍率で、10倍近い倍率の大学も見られます。その中でも頑張って合格を勝ち取ったという知らせも届いています。実際には同じ大学でも学校推薦型選抜入試より一般選抜入試の方が合格倍率は低くなる場合が多いので、今回第1志望校に不合格であった人も、諦めずに2月・3月までチャレンジしましょう。

また一般選抜では3教科型入試が倍率・合格ラインとも、2教科型入試より低くなります。最後まで、教科数を絞らずに、コツコツ勉強する人が第1志望校にたどり着きます。

今年の3年生(77回生)は近畿大学を第1志望にしている人が多くおり、学校推薦型選抜入試に実人数で28名がチャレンジしました。学校推薦型選抜入試は極めて高倍率、高水準ということで、残念ながら合格者は3名だけでした。しかし、そこから3教科をしっかりと頑張って、多くの人一般選抜入試で合格を勝ち取りました。近畿大学の一般選抜入試では実人数25名が受験し、うち14名が合格しました。一人で複数の合格をもらった人もいます。その人たちが、12月・1月の学校での補習に休まず出席して力をつけたことは言うまでもありません。

今年も専門学校合格者の中で、高い学習成績の状況と当日の入試の成績が評価され、入学金免除や授業料免除というとても親孝行な結果を出した人もいます。

1・2年生の皆さん、明るい未来を切り開くために、普段の授業を大切にしましょう！

総合型選抜・学校推薦型選抜入試を受験した人へ

①受験報告書の提出を忘れずに

推薦入試を受験してきた人は明石高校の先輩方の受験報告書のおかげで、不安なく受験できた人が多かったと思います。受験が終わればすぐに、受験報告書を必ず担任の先生に提出してください。加えて、調査書や推薦書を書いてくださった担任の先生、面接や小論文・自己推薦書の指導等でお世話になった先生方に報告をすることは、高校生のマナーとして当然のことです。

合否が判明したらすぐに、同様の報告をしてください。先生方は、皆さんの合否を大変気にかけています。社会に出れば、このようなマナーは常識ですので、今きちんとしておくようにしておいてください。

②問題の提供もお願いします

受験後、持ち帰りが可能な問題、その他資料も、後輩への情報としてぜひ提供してください。書き込み等があるものでかまいません。進路指導室でコピーを取って、原本はお返ししますので、よろしくお願いいたします。

③本命は、一般選抜ですよ！

これもずっと言われ続けていると思いますが、学校推薦型選抜を受験する人も、本命は一般選抜です。第1志望校を学校推薦型で受験するのは、チャンスを増やしてよいのですが、注意してほしいことがあります。

ある受験業者さんからの情報は次の通りです。

「阪神・神戸・播磨地区の公立高校の文系では、例年同様、関西学院大学や甲南大学の志望者が多い。ただ甲南大学の学校推薦型選抜入試は、関学レベルの英語・国語の力がないと合格は難しい。甲南の学校推薦型選抜に不合格の受験生でも、秋に歴史科目をしっかり勉強していれば、2月の一般選抜入試で関学に合格した例が多々ある。」とのことでした。昨年の近畿大学の例でもあるように、第1志望の学校推薦型選抜は受ければラッキー！ぐらいの気持ちで受験して、一般選抜に向けての勉強を途切れさせないようにしてください。

また「少子化の影響でどの大学も合格ラインの受験生の学力は10年ぐらい前と比べてかなり落ちてるので、高校の授業を大切にして勉強すれば、難関校も合格する。」とのことでした。昨年も国公立大学、私立大学を問わず、いわゆる難関校に合格した人の多くは塾や予備校に行かず、学校の授業・定期考査・小テスト・補習を大事にした人です。改めて「進路の手引き」の合格体験記を読んでください。1・2年生の人は、このことをしっかり頭に入れて、日々の予習を大切にして、授業に臨みましょう。

進路が決定した人へ

目標進路が決定した人(合格通知を受け取った人)が、いかに最後まで頑張るか、は自分のために当然大切です。以前にも伝えたように高校の調査書は卒業時や卒業後も必要なことが多くあります。進路決定時より、卒業時の成績が下がれば自分に不利益になります。そういう意味では、指定校で校内推薦を得た人の多くが、2学期も補習に休まず出席しており、素晴らしいことだと思います。

また これも以前にも記しましたが、「受験は団体戦」です。進路決定の人たちの勉強する雰囲気(授業に臨む姿勢)がクラスのムードをよくします。もし進路の決まった一部の人が、休み時間に遊びや娯楽の話ばかりしていれば、そのクラスの雰囲気はどうか？ 大半のクラスメイトは休み時間も寸暇を惜しんで勉強しています。

実際、2学期にクラス全員(進路決定者も含めて)がすごく前向きに授業を受けている、と感じられたクラスの中間考査平均点は、やはり高かったです。このクラスの3月の進路決定状況が、非常に楽しみです。78回生全員がこの素晴らしいムードで12月・1月を過ごし、311名が力を合わせて、受験に挑みましょう。

閑話 前号では「鳥人間コンテスト」に出場した75回生の先輩方の頑張りを書きました。

今回も引き続き、先輩の話の一つ。

先月13日に感動のうちに閉幕した関西万博の公式キャラクターはもちろん知っていますね。そう「ミャクミャク」です。発表当初はもうひとつ不評(?)だったような気がしますが開幕後はどんどん人気が上がって、「ミャクミャク」のおかげで大成功になった、と博覧会協会も閉幕後にコメントを発表しています。その「ミャクミャク」のデザイナーはご存じですか？ 山下浩平さんで、関西万博公式キャラクター公募で1898点の応募作品の中から最優秀作品に選ばれました。山下さんは明石高校41回生で、美術科の卒業生です。デザイナーや絵本作家として2000年頃より活躍され、特に「やましたこうへい」名義で多くの絵本・児童書を創作している有名な作家です。今回は「1970年の大阪万博の太陽の塔が好き」との動機から応募されたとのこと。

今、日本で一番有名なキャラクターの生みの親が、皆さんの先輩とは誇らしいですね！ 皆さんも山下さんのように、ずっと夢を追いつけてほしいです。(責o)



